

## 国際園芸博覧会の構想案について

---

－ 目次 －

1. 基本理念及びテーマ.....	2
2. 事業展開.....	6
3. 事業構成.....	10
(1) 開催場所.....	10
(2) 開催年及び開催期日・期間.....	12
(3) 会場構成.....	14
(4) 地域整備の方向性.....	18
(5) 輸送計画.....	20

令和元年9月30日

- 横浜市の構想案は、基本理念及びテーマ、開催場所、開催時期等、全体としては国による国際園芸博覧会としてふさわしい内容を備えている。
- 一方で、会場敷地の確保や輸送計画などの国際園芸博覧会を開催する上で必要な要素について、様々な状況や手段を想定した上での詳細な検討を行うことが不可欠である。
- また、国際園芸博覧会で体験できる事業コンセプト・コンテンツや会場構成・演出、情報発信や機運醸成のために行う取組については、具体的な内容が現段階では示されていないので、委員からいただいた意見などを踏まえ、今後さらに検討を行うことが必要である。

横浜市における国際園芸博覧会の構想案	事務局の考え方（詳細は次ページ以降参照）
基本理念及びテーマ	国が開催する博覧会にふさわしい
事業展開	コンテンツについてさらなる検討が必要
開催場所	国際園芸博覧会を開催するにふさわしい
開催年及び開催期日・期間	国際園芸博覧会として適切な期間
会場構成	今後さらなる検討が必要
地域整備の方向性	レガシーを生かしたまちづくりのさらなる検討が必要
輸送計画	新たな交通インフラ等具体的な検討が必要

## 1. 基本理念及びテーマ

- 横浜市案は、基本理念を具現化・可視化する基本構造としてグリーンインフラを位置付け、メインテーマを「幸せを創る明日の風景」としている。
- これらは、近年の国際園芸博覧会や日本における博覧会、とりわけ2025年に開催される大阪・関西万博のテーマを踏まえ、更に発展させていくものであり、国が開催する国際園芸博覧会の基本理念及びテーマとして相応しいと考える。

### 横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

#### ■ 基本理念を具現化・可視化する基本構造

- グリーンインフラ(サステナブルインフラ、社会的な共有資源)。
- インフラ・ベストミックスに関する日本のシステム等を発信・共有し、持続的な社会の構築に貢献。 等

#### ■ メインテーマ



#### ■ テーマの意図: 日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会

- 花や緑、農による価値の今日的効果を国際園芸博覧会という参加体験による実証の場を通して世界に問いかける
- 新たな価値観・産業領域の創出等とあいまって、国際的な課題の解決や未来社会の展望に新しい視点を与え、進展に大きく寄与
- グリーンインフラがもたらす風景や新たな価値は、豊かさの質を深める持続可能な未来の環境社会に新たな価値をもたらす

# 1. 基本理念及びテーマ

## 第1回検討会における委員意見

- 「愛・地球博」では、国として開催する意義について大変な議論を重ね、誰もが環境問題のステークホルダーになるということを前提とした博覧会とすることとした。この国際園芸博覧会では SDGs等の世界的な課題について、どういう立ち位置で世界に問うのかとの議論が必要。SDGs や Society5.0 などの新しいテーマの推進や、モノの生産よりコトの生産、イノベーションよりもクリエイション、誰もが快適に暮らせる人間中心のまちづくりへの移行など、社会は大きく変化している。こうした変化を背景に、国際園芸博覧会を上瀬谷で開催する意義を十分整理する必要がある。
- 市民が参加しての将来の新しい園芸文化を発信する場となしてほしい。
- 超高齢社会にあって、「生きていてよかった」という場所を作ることが必要。人と人の出会いの創出、効率化や均質化とは異なる価値観を示せることが重要。
- 花や緑との関わりを考えることを通して、新しい技術革新が進む社会において人間の幸せの姿はどうあるべきかを考えていきたい。
- 横浜市として上瀬谷地域をどのようにモデル化できるか、日本のこれからの超高齢社会においてひとつの先端的な生き方につながるまちづくりを提案できるよう、議論を深めるべき。
- 横浜での開催のため、都市型農業やスマート農業というものが材料となる一方で、農業全体や花き産業全体を視野に、地方の現状も踏まえた「農の発展」を視野に入れてほしい。

【参考】他博覧会等におけるテーマの例

近年の国際園芸博覧会

- 近年の国際園芸博覧会は、緑の都市、持続可能性、教育、健康など、人間の生活をテーマとして開催されてきている。
- 横浜市案は、近年の国際園芸博覧会の潮流を継承するものとなっていると考える。

開催年	名称	テーマ
2016	アンタルヤ国際園芸博覧会 (トルコ)	花と子供達 サブテーマ:「歴史」、「生物多様性」、「持続可能性」、「緑の都市」
2019	北京国際園芸博覧会 (中国)	緑の生活、より良い生活 サブテーマ:「緑の発展」、「生活における園芸」、「自然との調和」、「教育と未来」、「心のふるさと」
2021	ドーハ国際園芸博覧会 (カタール)	緑の砂漠 よりよい環境 サブテーマ:「環境の認知」、「技術革新」、「持続可能性」、「現代的農業」
2022	フロリアード・アルメーレ (オランダ)	成長する緑の都市 サブテーマ:「緑」、「食」、「健康」、「エネルギー」

【近年の国際園芸博覧会の潮流】

園芸産業振興とともに社会課題への貢献が展開。花と緑を通じた生活の質の向上等がテーマ。

2027	横浜市における国際園芸博覧会	幸せを創る明日の風景
------	----------------	------------

## 【参考】他博覧会等におけるテーマの例

### 日本における博覧会

- 花の万博（1990年）以降、我が国では、計2回の登録博覧会と国際園芸博覧会(A1)を開催。常に、自然と人間の関係性を見つめ直す機会と、新しい社会の構築の契機となってきた。
- 2025年には、未来社会のデザインをテーマとする大阪・関西万博が開催される。
- 横浜市案は、日本における博覧会の潮流を継承するものとなっていると考える。

開催年	名称	テーマ	成果等
1990	国際花と緑の博覧会 (花の万博)	「自然と人間の共生」 花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然と人間の調和のある発展を目指すことを命題とした。</li> <li>・ 花と緑に対する関心と興味の喚起。都市緑化推進、花のある生活の充実に貢献。</li> </ul>
2005	2005年日本国際博覧会 (愛・地球博)	「自然の叡智」 サブテーマ: 宇宙、生命と情報 人生の“わざ”と智慧 循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最先端技術の適用、新たな社会行動やシステムの採用、多様な文化・価値観の共有などを博覧会を通じて表現。</li> <li>・ 国連「持続可能な開発のための教育の10年」計画のリーディングプロジェクトの位置付けとの評価。</li> </ul>
2025	2025年日本国際博覧会 (大阪・関西万博)	「いのち輝く未来社会のデザイン」 サブテーマ: 多様で心身共に健康な生き方、 持続可能な社会・経済システム	

### 【日本における博覧会の潮流】

自然と人間の関係性を見つめ直す機会と、新しい社会の構築の契機

2027

横浜市における国際園芸博覧会

幸せを創る明日の風景

## 2. 事業展開

- 横浜市案は、事業展開にあたり、ガーデンシティ横浜の推進等を通じて、開催に向けた機運醸成を図るとしており、また具体的な事業の方向性として、花・緑・農・食・大地・交流を設定しているが、この方向性は基本理念やテーマと合致していると考える。
- 実際に国際園芸博覧会で体験できる事業コンセプト・コンテンツや、機運醸成のために行う取組について、上瀬谷という場所の特性を生かしつつ、地球規模課題への対応、海外も含む新しい園芸文化の発信、多方面に及ぶネットワークの計画的な構築、地方の現状も踏まえた「農の発展」等の視点に留意しつつ、具体化していくことが望ましいと考える。

### 横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

#### ■事業展開の考え方

- 日本・横浜らしさや魅力の発揮
- 博覧会後のレガシーの社会定着促進 等
- 国際園芸博覧会の開催に向けた市民、企業等の機運醸成  
(ガーデンシティ横浜の推進 等)



#### ■事業コンセプト・コンテンツ



## 2. 事業展開

### 第1回検討会における委員意見

- 大阪花博は6年前からプレイベントを続けて行い国民への周知を徹底した。グリーンインフラに関しては、横浜市の市民力がその公共インフラにまで及び、社会資本は自分たちのものであり自分たちで管理すべきとの意識を高めることに意味がある。市民と国民がこの博覧会に何を期待するのか、期待できるのかをプレイベントの中に織り込んでいくことが必要。国際園芸博覧会での経験が、グリーンインフラの管理を担う市民意識を高揚させる機会となりうる。
- 市民が参加しての将来の新しい園芸文化を発信する場となってほしい。
- 海外からの来場者や関係者が日本全国各地を訪れるように、全国自治体とのネットワークをこの国際園芸博覧会を通して築けるとよい。
- 開催までの間、様々なワークショップ等を通して人と人との関係性を築いていくべき。
- 生物多様性や地球規模の環境保全といったものがどういうものか、具体的に体感できるものを見せてほしい。
- 花や緑、農業や環境まで幅広くとらえ、人間の幸福度が高まるようなコンテンツを打ち出せるとよい。
- 日本の生け花は、日本特有の花文化であり、自然や植物に対する信仰心と結びついている。イングリッシュガーデンよりも、琳派絵画にあるような日本の花や、日本の里山や風景、蓮田というような日本の原風景を国内外へ発信してほしい。
- 農地を含めたまちづくりの提案を行える場所で、クールジャパン、日本の伝統や文化をどう組み合わせるかが求められている。
- 横浜での開催のため、都市型農業やスマート農業というものが材料となる一方で、農業全体や花き産業全体を視野に、地方の現状も踏まえた「農の発展」を視野に入れてほしい。
- 日本から発信するだけでなく海外からの出展者の園芸文化や技術を情報発信できるような仕組み、またはそのような魅力があることを海外へ向けて発信する取組みが必要。海外から出展したいと思ってもらえるようにする必要がある。
- 日本、横浜、上瀬谷ならではの時間、空間、価値を体験できるという部分をどう見せるのか、具体化することが必要。バーチャルをうまく使いつつ、やはりリアルな体験が強みになる。



## 【参考】他博覧会の機運醸成例

### 国際花と緑の博覧会「花の万博」

- ・ 国際花と緑の博覧会「花の万博」（1990年）では、開催前から、会場でのプレイベントをはじめ、様々な広報活動を展開した。
- ・ 広報活動の基本方針等について審議する広報委員会を設置。開催前から会期末までを6期に分け、必要な広報活動を検討している。

#### 開催前

##### プレイベント実施

鶴見緑地で会場建設が始まるまで毎年開催

- ・ S59「おおさか'84」：40万人入場
- ・ S60「花・食の祭典」：91万2千人入場
- ・ S61「花に集い、花に憩い、花に遊ぶ」：76万9千人入場

##### 広報委員会（広報活動検討）

- 大まかな年次別期間テーマ設定
- ◇ 第1期（昭和61年）  
開催のPR
- ◇ 第2期（昭和62年前半）  
花の万博のコンセプトと意義の訴求
- ◇ 第3期（昭和62年後半）  
進行状況の多角的訴求
- ◇ 第4期（昭和63年）  
入場券発売期を踏まえた多角的な期待感の醸成
- ◇ 第5期（平成1年）  
博覧会の具体的な展示や催物の内容を取り上げ、楽しさの訴求を行う
- ◇ 第6期（平成2年）  
動員フォローの徹底キャンペーン

##### 国内広報活動

- ・ 記念行事の開催
- ・ その他広報イベント
- ・ 各種行事への広報参加
- ・ 広告の出稿
- ・ 屋外看板等
- ・ 公式ポスター
- 等

##### 海外広報活動

- ・ 海外の国際博覧会等への広報参加
- ・ 国際的募集企画への協賛PR
- ・ その他の海外広報
- 等

#### 会期中（H2(1990)年）

- 観光客誘致キャンペーン・各種広報イベント
  - ・ 飛行船キャラバン
  - ・ シンポジウム
  - ・ ウォーキング大会 等
- 広報コンパニオンによる報宣伝活動
- 広報プロモーションツールの活用
  - ・ イベント旗
  - ・ プロモーションビデオ等
- マスメディアへの出稿
  - ・ 新聞広告出稿
  - ・ テレビスポットの投下
- 花の万博放送局
  - ・ 会期終了まで、会場から半径25～30kmの範囲の聴取者に放送
- アマチュア無線特別記念局
- 花の万博新聞の発行
- 等

【参考】他博覧会等におけるコンテンツ検討例

国際花と緑の博覧会「花の万博」 / 大阪・関西万博

- 国際花と緑の博覧会「花の万博」（1990年）の検討過程において、大阪市による「花の博覧会基本構想」（開催6年前）では、会場計画、行催事計画、広報計画、財政計画などについて詳細な検討がなされた。同構想内の「花の環」には、花のパレード、花のロボット展、大温室、エクステリアコンペ等のコンテンツが示された。
- 大阪・関西万博のビッド・ドシエ（開催8年前提出）では、万博テーマを具体化する「EXPOテーマ体験」を設定。当テーマに沿ったパビリオン、プログラムの導入が示されている。

■国際花と緑の博覧会「花の万博」

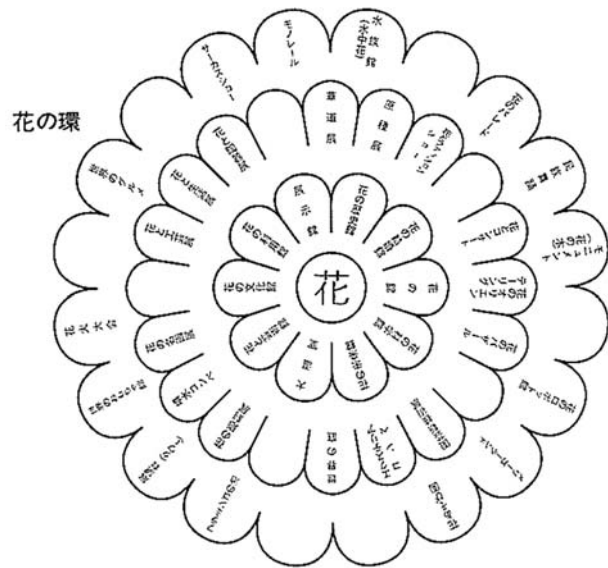


図 花の環（「花の博覧会基本構想」、S59）

出典：「国際花と緑の博覧会と大阪市」（大阪市、H3.3）

■大阪・関西万博ビッド・ドシエ



（仮訳）  
バーチャル会場の成長の可視化  
テーマ体験によって獲得された  
ポイントを社会貢献に活用すると、  
緑が会場を覆っていくことで、  
模擬的に可視化する。

図 導入するプログラム例（一部抜粋）

資料：「大阪・関西万博ビッド・ドシエ（英語版）」に一部、資料作成者が日本語仮訳を追記